

あったかいいね

# シャローム横浜通信 5月号



## 「共感的関心」

軒先につばめが帰ってくるころとなりました。当施設でも毎年つばめが帰ってきており、先日いつも巣を作っている場所に2羽いましたので、今年も新たな命の誕生を楽しみにしていきたいと思えます。

3月22日の朝日新聞に興味深い記事を見つけました。編集委員岡崎明子著の「助けて」と言えない「みんな我慢」の文化 変えるには】には、「日本人は米国人に比べ、困っている人への同情心が低く、困っている人を見ても気の毒に思わない。そしてその傾向が強い人ほど『助けて』とはいえない」という。しかし、他者を助けたり、助けられたりした共感的な経験を思い出すだけで、助けを求めやすくなると書かれていました。

一方で、福祉の現場には「我慢するのが当たり前」という空気が残っているのも事実です。「忙しいから」「みんなやっているから」と自分の限界に蓋をしてしまう職員が少なくありません。こうした我慢の文化は、やがてケアの質を損ない、職員自身の体や心をむしばんでしまいます。だからこそ、相手を思いやり、相手の視点に立って気持ちを想像することで、困っている仲間がいたら声をかけ、一緒に考えるなど、自分が助けてもらった経験を思い出して、しんどさを素直に伝えられるという誰もが安心して働ける環境づくりが必要であると感じています。そして、この視点がご利用者へのより良いケアにつながる、法人のモットーである「あったかいいね」につながるのではないかと考えています。

当法人も新年度を迎えて新たな職員が期待と不安の中で働いています。法人に関わる方々に「あったかいいね」と感じていただけるよう取り組んでまいります。今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

施設長 高原 信夫

第297号  
令和7年4月15日発行  
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原信夫  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町  
1988  
アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集委員  
荒金・石川・石橋・加藤  
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



## 入園式・卒園式

ひまわりにて、レクリエーションの延長として保育園の卒園式用の看板を作りました。細かい作業から、立て看板として完成するまでみんなでコツコツと作り上げました。



入園式の看板もお願いされてそちらの看板もあつという間に作り上げました。今まで壁飾りなどはプレゼントしてきましたが、式典の看板を頼んでもらえるなんて、とても光栄な事だと思っています。


ひまわり主任 木下順子

## いつもシャローム通信を ご覧くださりありがとうございます。

シャローム通信は毎月1回15日に発行しています。事務局 石橋、石川、加藤、相談企画課 荒金の4名で作成・編集をしています。アドベンチスト福祉会 シャローム横浜での活動や日々の様子を皆様にお伝えできるよう編集委員で作成しています。



【あったかいいいね】

シャローム横浜ではひっそりですが、 X (旧 Twitter) にて【あったかいいいね】というアカウント名でシャローム横浜のちょっとした日々の様子を投稿しています。投稿は不定期ですが、ご覧いただけると嬉しいです。

シャローム通信編集委員 加藤美希



Xに投稿している写真  
(お正月・節分・地域活動等)



★  
今年度の栄養課主催  
行事食の内容を  
ご紹介いたします



写真は昨年度の行事食になります

### 新年度栄養課主催行事食

5月 4日	春のピザパーティー
6月 1日	海鮮丼屋台
7月 6日	夏野菜を食べよう会
8月 3日	あんみつ屋台
9月 7日	秋のピザパーティー
9月 14日	敬老祝い膳
10月 5日	ラーメン屋台
11月 2日	焼き芋パーティー
12月 25日	クリスマスディナー
1月 1日	正月祝い膳
2月 1日	手作りデザートを食べる会
3月 1日	ラーメン屋台

栄養課課長 小寺秀偉

## 「40年前にあった懐かしい思い出」 第205回 チャプレン 上前至

4月1日、2025年度新入職員の入職式を行った。そこで「キリスト教社会福祉」についての話を頼まれ、その話しの準備のために久しぶりにキリスト教社会福祉に関する資料を漁っていた。その時に、以前、私が米国アンドリュース大で書き上げた修士論文が出てきた。題は「William C. Grainger: The Man & The Japan of His Time」訳すると「ウィリアムC グレンジャー：その人とその時代の日本」というものである。彼は1894年、日露戦後、日本にSDAの宣教師として始めて来て、今日の私共の教会の礎を築いたような人である。この人によって日本の伝道が始まり、その上に今日のSDA教会は発展してきたともいえる。日本のSDA教会史においては、かけがえのない功労者といえる。但し、その日本での滞在は3年少しばかりと短く、決して長いものではない。彼は日本の気候が合わなかったか、又、医療も充

分でなかったせいか尿毒症で亡くなりその遺骸は青山の外人墓地に埋葬された。今も墓はそこにある。私は彼の功績を日本人として知っておく必要から修士論文として書き上げたのである。その日が1984年4月6日とあり今から41年前のことである。そして、その論文についてのM・マックスウェル先生の署名とコメントがでてきたのである。マックスウェル先生はシカゴ大学で博士号をとり私の指導教授であった。そして私の論文を誉めてくださっていた。先生も以前日本に宣教師としていく事を希望しておられたとの事。機縁を感じた。一粒の麦として死んでいかれた方によって、今日、その結果として日本にも豊かな実が結ばれている事を感謝したい。ヨハネ12章24節

